

第24回 日本時間生物学会学術大会に参加して

阿部 泰子[✉]

東京大学 大学院理学系研究科 生物科学専攻

2017年10月28日から10月29日にかけて、京都にて開催された第24回日本時間生物学会学術大会に参加しました。この度、学会参加記のお話をいただきましたので、ご期待にそえるかどうかはわかりませんが、お付き合いいただければ幸いです。

今回の時間生物学会は、「多様性と共鳴」がテーマとなっていました。特別講演やシンポジウムなど、様々な場面でこのテーマの意味を実感することができました。時間生物学会に初参加した私にとっては、何もかも初めてのことばかりでしたが、「時間」というキーワードだけで、ゴリラから氷河の小さな昆虫、シアノバクテリアからヒトの臨床研究に至るまで、多岐にわたる研究にふれることができるとても新鮮でした。自身の研究とは違った分野の研究テーマに対して、これまではどこか離れたところから眺めるように接していましたが、考え方や問題解決方法の共通点など、自分の研究にも生かせるヒントが隠れているように感じ、講演やシンポジウムを聴く姿勢が変わってきたように思います。このように、「多様性」を認めて互いの研究内容に興味を持つだけではなく、一見離れたテーマであっても互いの研究を結びつけてみるという「共鳴」が、これからの時間生物学研究を切り開いていくのだと感じました。異なるバックグラウンドで、異なる分野の研究をしている人どうしが出会い、「時間」や「リズム」という共通点のみであっても互いの研究を純粋に面白いという学会の雰囲気がとても心地よかったです。

また、よく考えると当たり前ではあるのですが、学会に参加するなかで、論文でしか名前を知らなかった偉い先生にたくさん会えることに感動しました。トレーニングコース後に連れて行っていただいた飲み会で、隣に座られた方に、「もしかして Koike et al., 2012 の小池さんですか？」と聞いたら笑われました。自身のポスターを説明する時にも、大御所の先生相手に「哺乳類の概日時計では CLOCK と BMAL1 の複合体が…」などと偉そうに説明してしまったらどうしようかと、常にネームプレートをチラ見していました。顔

と名前を一致させようと精一杯努力していますので、皆さんきちんと表向きでネームプレートをかけていただけると大変嬉しく思います。

大会に参加する前には、夏休みの宿題はためるタイプで計画性のかけられない私は、ギリギリまで要旨がまとまらなかったり、なかなかポスターが完成しなかったりと、多くの方にご迷惑をおかけしました。(この学会参加記も締め切り間近の執筆となってしまう、申し訳ありません…) 研究室から複数のポスターをまとめて持つて行くことになったときにも、「阿部さんは信用ならないから帰り担当」と言われて悲しかったのですが、結局私は帰りに全員分のポスターをホテルに忘れてくることとなり、皆さんの不安は的中しました。(※無事に回収済みです。) 手のかかる学生で申し訳なく思います。まだまだ自分の研究もきちんと形にできていない状況ではありますが、こうして時間生物学会に参加する機会をいただき、さらに(一風変わったデータブリッツのおかげで?) 優秀ポスター賞も受賞することができたのは、ひとえに研究室の皆さんのおかげです。また、学会への参加を通じて多くの先生方の研究に触れたことで、研究に対するモチベーションもかなり上がりましたし、これまでよりも広い視野で長期的に自分のテーマを考えることの大切さを再認識することができました。多様性と共鳴が、これからの時間生物学を切り開いていくキーワードとなり、ゆくゆくは私もその一翼を担うことができるよう、今後も邁進していきたいと思っております。

最後になりましたが、本大会を企画し運営してくださった、沼田先生をはじめとする関係者の皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。



✉ yasuko.abe@bs.s.u-tokyo.ac.jp